



No.446

発行 社団法人名古屋工業会  
(名古屋工業大学全学同窓会)  
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4  
TEL・052-731-0780  
FAX・052-732-5298  
E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp  
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2012 3-4 月号

[OBトップセミナー] 学生就職支援事業  
社会人としての皆様に期待すること  
商社の求める人材像

[学生コーナー]  
フランス・リモージュでの研究生活

[ごきそホットライン]  
名古屋工業会奨学金の授与  
工大祭支援金の授与  
課外活動活性化経費授与式

[研究者紹介]  
知的障害者の建物清掃への雇用の現況に関する調査研究  
名工大での10年  
グリーンサプライチェーンの実現に向けた研究

[トピックス]  
翼会の歴史 座談会報告

[随筆]  
輝く栄光の蔭に埋もれるもの

[文芸]  
彷徨い

[情報ネットワーク]  
支部報告・会員ニュース

パズル

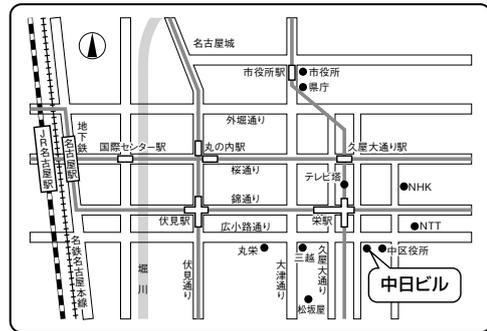


# 平成24年度 (社)名古屋工業会第46回通常総会ご案内

と き 平成24年5月26日(土) 14:00～  
と ころ 中日パレス  
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5F  
TEL 052-261-8851

総 会 14:00～15:35 クラウンホール  
特別講演 15:45～16:45 ”  
パーティー 17:00～19:00 エンゼル  
パーティー会費 6,000円 (当日受付へお支払いください)

議 事  
第1号議案 平成23年度事業報告及び決算報告  
第2号議案 平成24年度事業計画及び予算案  
第3号議案 役員改選  
第4号議案 一般社団法人への移行認可申請  
第5号議案 その他



行 事  
イ. 叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈  
ロ. 名古屋工業大学定年・勲奨退職者への感謝状と記念品贈呈  
ハ. 卒業満70年(S17年)、60年(S27年)、50年(S37年)の正会員への記念品贈呈  
(総会出席者及び委任状提出者に限る)  
ニ. 特別講演 講師：株式会社ノリタケカンパニーリミテド 顧問(元専務取締役)  
山田 陽一氏 (Y44)  
演題：「白磁窯の技術史—近代から現在までの技術革新—」

なお、ハ. の卒業該当の方へは特にご案内状を差し上げませんので、本誌に挟み込みの「通信ハガキ」にてご出席の有無をお知らせください。

また、正会員の方でご欠席の場合は、お手数でございますが挟み込みの委任状にご記名ご捺印の上、返送いただきますよう特にご協力をお願い申し上げます。

## 名古屋工業会定例評議員会ご案内

と き 平成24年5月26日(土) 12:30～  
場 所 中日パレス コスモス

### 表紙写真説明

#### 「出会いの春！」(奈良 屏風岩)

春には、入学、就職など新たな出会いがあります。二度と来ないこの時を大切にしましょう。

桜は、人々の心を明るくする特別な力があると思います。

撮影者 安村隆志 (W①)

# OBトップセミナー

(学生就職支援事業)

平成21年度から始まったOBトップセミナーは、年末より開始される学生達の就職活動に資するべく(1)企業経営にかかわる会員による講演、(2)より一層実務に近い部課長層の講演をリンクさせ(3)12月の「企業研究セミナー」に結びつけることとした。さらに(4)単科会毎に開催されるOBとの交流会では、企業若手の実務クラスの体験談を聴くことができる。

今年のスタートとして、10月19日(水)に日立造船(株)取締役 澤田賢司氏 (M47) と豊田通商(株)副社長 浅野幹雄氏 (K50) による講演会が行われ、サテライト教室を必要とする545名という多数の聴講を得た。以下に講演概要を紹介する。

## 澤田賢司氏ご講演

### 社会人としての皆様に期待すること ～自らの反省を踏まえて～

副題として、「自らの反省を踏まえて」とされているように、ご自身の生い立ち、自己紹介に始まり、人生における時期の位置づけを認識するように呼びかけられた。ご自身の成長を振り返ると、30歳代で与えられた長期海外出張で、「自分で決める」ことが必要となり、仕事に対する「自覚」が芽生えたことがその後の成長に大きく影響したとの述懐もされた。

社会で貢献するには日々成長することが大事

**Hitz** 社会人として何が求められているか？  
Hitachi Zosen

- ◆社会に貢献するとは  
⇒会社人としては、日々**成長**し、持場・立場で確りと会社に貢献する
- ◆成長するには：(私自身が経験したことの中で説明した)  
転機での対応＝「**変わる**」**勇気を持つ**こと
- ◆彼の「ダーウィン」が残した言葉：  
“最も強いものが生き残るのではなく、  
最も賢いものが生き延びるわけでもない  
唯一、生き残れるものは**変化**ができるものである”

だが、成長するには「転機」での対応が重要で、「変わる勇気」を持つように説かれた。また、「強いものが生き残るのでも、賢いものが生き残るのでもなく、変化できるものが生き残る」というダーウィンの言葉を引用し、変化への対応力を養うことの重要性が強調された。

**Hitz** 社会人として何が求められているか  
Hitachi Zosen  
(自らの経験から、反省も踏まえて皆さんへのアドバイス)

私が求める「人財」とは：  
“**自信**”と“**好奇心**”と“**ねばり**”そして“**知恵**”を持つ人

“**自信**”  
自分の良さ(長所)を自覚し  
自分らしくあること

“**好奇心**”  
何事にも感心を持ち  
「なぜ？」と疑問に思うことが大切

“**ねばり**”  
目標達成に向けては、  
気持ちの強さ、「ねばり」が必要

“**知恵**”  
アイデアのこと  
常に「自分」で考える習慣を身につけ、  
「自分の意見」を持つよう

一方、ストレスをうまくリリースする術を持つことも必要で、趣味、スポーツ、サークル活動などに汗することも勧められた。

「大学での勉強は仕事で役にたつか？」という素朴な質問に対しては、「そのままの知識は役にたたない」とバッサリ。但し、更なる勉強のやり方、調べ方についてはおおいに役立つとし、その後の勉強・努力で役立つ知識に育つものと考えるように説かれた。社会での仕事で

**Hitz** 社会人として何が求められているか？  
Hitachi Zosen

《最後に参考》  
機械・インフラ本部の『特別行動指針』

“できない”と言わない  
-“できない”と言ってしまったら全く前には進めない。否定形から入らず、“できる”ようにするにはと前向きに考えて取り組んでいただきたい。  
「ゼロ」か「100」ではなく、「50」点でも良いと考えよう。

“やらされている”と思わない  
-仕事は指示されるものではあるが、取組む姿勢が“やらされている”と思ってやるのと、自ら“自発的・自主的”にやるのでは、その結果に大きな差がでるのは当然。仕事を通じての“成長”にも大きな差がでる。

は、「答え」は一つと限らないことが殆どであり、どのように検討を進めるのが良いかを考えるときに、大学で学んだ基礎知識が使える。

最後に、ご自身の担当されている機械・インフラ本部の『特別行動指針』が示され、“できない”と言わない。“やらされている”と思わない。この二つのことを徹底していることが紹介された。

この後、脱造船で陸に上がった日立造船について、企業理念、会社概要も説明された。



澤田賢司 石川県出身  
日立造船(株) 取締役(機械・インフラ本部長)  
名古屋工業大学生産機械工学科 昭和47年卒業  
同年 日立造船(株)入社

## 浅野幹雄氏ご講演

### 商社の求める人材像

#### ～元気と志～

「澤田さんのお話ででてきた“人財”と違って、材料の“材”となっています。会社の中には、財産となる人財もおりますし、一般的な人材もおります。中には罪を生ずる人罪もいます。“人罪にだけはならないようにしよう”と思っている。」との語りかけから講演が始まった。

続いて、「商社」に対する理解の一助として会社の概要が紹介された。取組み事例や営業本部で扱う商品事例を紹介、さらに開発からリサイクルまで多岐かつ広範な産業分野にかかわっていることが説明され、2020年という長期ビジョンも紹介された。

次にご自身が人事を担当し、採用面接の経験をもとに、面接で見分けるポイントとしては、「大局的に大きな目で物事を見ることができるか」「素直であるか」「バイタリティーがあるか」「精神的にタフであるか」「協調性があるか」であるとの紹介があり、最近の人事担当部門が受けている印象についても紹介された。すなわち、元気がない、草食化している、情報社会の影響で知識先行型の学生が多いとの印象がもたれているので、これらの点に留意し、反面教師とするように示唆された。

このあと澤田氏同様、ご自身の生い立ち・経験が語られ、得られた教訓について逐次わかりやすく解説された。なかでも人事を担当されていた頃のお話は、就職戦線に突入する聴講生にとって最大の関心事でもあり、熱心に耳を傾けていた。

「最初に云いたいことを云っておこう」ということで、ビジネスマンとして最も大切なことは『洞察力を磨いて、諦観力を身につける』ことだとの考えが披歴された。諦観力とは物事の本質を見抜く力だと考えてほしい。そのためには…というのが今日の本題である。

#### G VALUE 最初に結論

ビジネスマンとして、最も大切なことは  
(他の職業の方にあてはまるか?)

- 洞察力を磨き
- 諦観力を身につけること。  
そのためには……「元気と志」

傲岸不遜は、大嫌いで避けなければならない。  
謙虚さは大切。

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

人事部で大切なことは「人材育成（徳育）」と「採用」だと考えている。昇格とか降格とか、人事制度だとか、給料体系の課題もあるが、高い志を持ち続けることの人事システムと受験者の立場で考える採用活動が最も大事だと考えており、不合格でも何かを掴んで帰ってもらうような採用試験を目指しているとのことであった。

「世の中にはつまらない仕事などひとつもないよ」ということを訴えたい。どんな仕事でも、「好き」になる努力をすることが社会人としての第一歩で、その後に自分の志にあった仕事かどうかを見極めても遅くはない。高い志と元気があれば、いくらでも、転職・やり直しは可能なので、人間力に磨きをかけるよう訴えかけられた。

**G VALUE with you 人事時代-2**

- どんな仕事でも好きになる努力をすることが社会人としての一歩(世の中につまらない仕事など一つもないと思う。)
- その後に、自分の志にあった仕事かどうか見極めても遅くは無い。・・・配属時の話、その後の異動
- 学生さんは、未だ若い。今から一生涯の仕事を守るのは早いと同時に難しいのでは？
- 高い志と元気があれば、いくらでも転職・やり直しは可能。人間力に磨きをかけることの方が大切。

21

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

さらに、元氣と高い志、一人称で夢を語り、行動できる人間かどうか？そのように育つことが可能かどうかを基準に人材を見ている。その覚悟があるかどうか、口先だけではないか？…。人事のプロは見抜けるので、日頃から「志」に沿った行動に心がけ、深掘りされた価値観・人間力の向上に努めてほしい。みせかけではなく、『一人称で夢を語れるようになって下さい』と熱っぽく語られた。

**G VALUE with you 人事時代-採用**

- 元氣と高い志(夢を語れる人材)と一人称で語れる、行動できる・・・採用後の教育も継続
- 本当にその覚悟があるか(口先だけかどうか)？を会社は見ます。そのためには、日頃から「その志」に沿った行動、深掘りされた価値観、人間力が試される。即ち、「一人称で語れるかどうか？」です。(帰納的と言うよりは演繹的。但し、地に足が着いた形)

22

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

吉田茂をはじめ、歴代の名宰相といわれる人が師と仰いだ思想家の安岡正篤によれば、「元氣」は我々の存在・生活のモトになるものであり、「元氣がない」のは人間として根本的な失

格である。身近なところでは、五木寛之さんも、「元氣」は万物創造の母であり、命のふるさとの海であると言われています。このような「元氣」を忘れないようにして下さい。

続いて、松下幸之助さんや松下政経塾の塾長・上甲 晃さんの言葉や「隼」の川口淳一郎さんの講演会などから「志」の重要性について引用、解説がなされた。

日く、高い志と現実とのギャップをどのようにして埋めてゆくかが重要で、高い志ほど障害を乗り越える力となる。勉強のレベル・やり方で志の高さは変わるし、後の人生は当然ながら変わってきます。また志の内容によって、出会う人も変わってきます。だから高い志を持つように!!

**G VALUE with you 志-1**

- 「志」の3条件 (欲ではない)
  - ①テーマ(仕事の目標ではなく、人生の目標を持つ)
  - ②原理原則(生き方の原理原則、哲学・理念のようなもの)
  - ③言行一致(言うだけでなく行動を伴わせる事)
 ……小島直記、上甲晃

如何に高い志と現実とのギャップを認識して埋めてゆくかが肝要。高い志ほど障害を乗り越える力となる。

- ・ 志は、時間の経過と共に変化しても良いと思う。
- ・ 勉強のレベル・やり方で志の高さは変わる。・・・その後の人生は、当然変わる。
- ・ 障子を開けてみる！世界は広い。日本のみならず世界には人材は多い。

23

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

**G VALUE with you 志-2**

- 「隼」(いとかわ) 川口淳一郎(2003年~2010年)

- ① **技術よりも根性**  
⇒高い志があれば、障害を乗り越える根性も備わる。継続性も備わる。
- ② **運を實力に変えて定着させる活動が必要**  
⇒命(人間としてのミッション)を動かす努力が必要。宿命など無い。
- ③ **高い塔を建ててみなければ、新たな水平線は見えてこない**  
⇒高い志を持っていれば遠くが、新しい世界が見えてくる。

24

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

日く、川口さんは三つのポイントを挙げられ、一つ目は「技術よりも根性」、これを「高い志があれば障害を乗り越える根性も継続性も備わるものと理解する。技術も必要だが、技術に勝るような大きな志、それから生まれる根性によって、技術も生きてくるのではないか？

二つ目が「運を実力に変えて、定着させる活動が必要」。これに対しては、運命の命を人間としてのミッションと考えれば、これを動かす努力が必要であり、宿命などというものはないと理解した。次に、三つ目に挙げられたのは「高い塔を建ててみなければ、新しい水平線は見えてこない」というもので、これも高い志を持っていれば、遠くがそして新しい世界が見えてくる。と解釈している。

最後に、先輩から聞いた話として「人生に転機は三回あり、ストライクは三回ある。」まず、バッテリーボックスに立つこと、そして、ボールが投げられているかどうかを見極める能力をそなえているかどうか、さらには、そのボールがストライクか否かを見極める。あとは、思い切って振りぬく。これが三回の転機を乗り切っていく方法だ。と言われたことが紹介され、この行動を支えるのも「志」なのだとの解説がなされた。

**G VALUE** 志-3

人生にストライク(転機)は三回ある。  
Ex.入試・就職・結婚・転職?・・・先輩から

①バッテリーボックスに立つこと

②ボールが投げられているか否かを見る

③そのボールは、ストライクか否か見極める  
⇒後は思いっきり振りぬく。

この行動を支えるのも「志」。

27

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

ご自身が感じられた「リーダーの条件」は、

- (1) 「知」 知識・知恵の力
- (2) 「意」 信念に基づくやりぬく力 (胆力)
- (3) 「情」 人に対する公平・正確な認識と  
組織原理を感じる力

だとして、これらの力のベースになるのも「志」だと考えられる。とのお話がなされた。

このあと蛇足として、次のスライドが示されたが、この中で、覚えておいて欲しいものとして「陰と陽のバランス」で、「必ずしも、50:50がベストではなく、陰が51、陽が49の比率が一番良い。仕事をやっていく上でも、守り51%、

**G VALUE** 蛇足

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 仲間を大切に</li> <li>■ 一生涯の趣味を</li> <li>■ 生涯勉強</li> <li>■ 歴史に学ぶ</li> <li>■ 人生の切り創から真の力を</li> <li>■ 継続は力</li> <li>■ 陰と陽のバランス</li> <li>■ 健康管理</li> <li>■ 一流を目指せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 無私大道</li> <li>■ 原理原則</li> <li>■ 病は気から</li> <li>■ 自習自得</li> <li>■ 胆力ある見識</li> <li>■ 「則天去私」:天が見ている</li> <li>■ ピーターの法則</li> <li>■ 惜福</li> </ul>
--	---

30

TOYOTA TSUSHO CORPORATION

攻め49%のバランスが良いようだ。」と紹介された。また、「胆力ある見識」については、自分の価値観を磨き、おれない人間になって欲しい。しっかりした、おれない、芯のある価値観を持ち、胆力ある意志を持つように檄が飛ばされた。

**TOYOTSU WORLD**  
号外 理系版

理系の強みをどのように考えていますか？ 商社業界で理系の活躍できるフィールドは限られている、あるいは専門性が活かせないと感じている方が多いのではないかと思います。豊田通商では、理系出身の先輩が専門知識・研究を通じて培った論理的思考法を活かし、様々なフィールドで活躍しています。ただ、ビジネスをするうえで一番大切となることは「高い志と元気」。それらをベースとした「人間力」。これらは大学の専攻とは関係ない事ではないかと思えます。理系学生の皆さん、世界を舞台に皆さんの力で新規ビジネスの種を育ててみませんか？ 豊田通商で一緒に活躍してくれる理系学生を待っています。



留哲人



浅野幹雄  
豊田通商(株) 副社長(経営全般担当)  
名古屋工業大学金属工学科 昭和50年卒業  
同年 豊田通商(株)入社

# 学生コーナー

## フランス・リモージュでの研究生活

未来材料創成工学専攻博士前期課程2年 須原 稔貴

### はじめに

この度、私は名工大が取り組む事業の一つである「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP) / 次世代セラミックス科学若手研究者育成プログラム」のサポートの下、2010年10月から2011年2月までフランス・リモージュにある国立セラミック工科大学 (ENSCI) / リモージュ大学に研究留学させて頂きました。本稿では、私の五ヶ月に渡るリモージュでの研究生活をご紹介させて頂きたいと思います。

### 渡仏までの経緯

リモージュはパリから300km程南にある地方都市で、高速鉄道に乗って三時間程でリモージュ駅(写真1)に到着します。リモージュは地場産業として陶磁器(セラミック)が有名な都市で、日本でも人気のあるアビランドやベルナルドなどの高級食器ブランドの店舗や工場もあります。また、愛知県の瀬戸焼で有名な瀬戸市とも姉妹都市になっています。この様な背景のおかげで、国立セラミック工科大学(ENSCI)はセラミックスを学ぶための専門大学(グランゼコール)となっており、世界中からセラミックスを学ぶために多くの人々が集まって来ます。リモージュにはもう一つリモージュ大学という文学部、理学部、工学部等から成る総合大

学があります。現在、フランスでは大学院の統合が進められており、国立セラミック工科大学とリモージュ大学もセラミック教育において相互連携していると聞いています。

私が所属する名工大機能性ハイブリッド材料研究室とリモージュ大学SPCTS研究所は数年前から様々な交流を行って来ました。共同研究は勿論の事、多くの学生がリモージュ大学SPCTS研究所に研究留学を行いました。機能性ハイブリッド材料研究室から研究留学した学生として私で五人目となります。私はテルライトガラスをベースとした光機能材料の研究を行っていました。この事もあり、テルライト研究の第一人者であるリモージュ大学SPCTS研究所のP. Thomas先生(写真2)の研究室への研究留学を決めました。私の指導教員である早川知克准教授もリモージュ大学SPCTS研究所への留学経験があり、早川知克准教授の全面的なサポートを得て、P. Thomas先生との渡仏に関する手続きをととてもスムーズに進めることができました。

フランスに三ヶ月以上滞在する際にはビザを取得する必要があったので、私は学生用ビザを取得しました。ビザ申請の際には多くの書類が必要となります。学生用ビザの場合ですと、留学受け入れ先からの招待状、日本の大学の在学証明書、渡仏資金のサポート証明などが



写真1. リモージュ駅



写真2. P. Thomas先生(左)と筆者(右)

ありました。これらの証明書は早川知克准教授とP. Thomas先生の協力の下、問題無く集めることができましたが、ビザ申請から発行までは一ヶ月以上かかりました。これは、ビザ申請当初、フランス大使館側がフランスの大学で授業をとらず研究活動のみを行う私の研究留学を学生の留学として認めなかったためです。そこでP. Thomas先生にこの旨を連絡し、追加の書類を郵送してもらいました。そのおかげで、なんとか渡仏予定日の三日前にビザが発行されました。このビザ発行までの数週間、かなり精神的に焦っていたのを今でも鮮明に覚えています。

### リモージュでの研究生活

リモージュ大学はリモージュの中心地からバスで10分程の場所にあります。私はこのリモージュ大学構内の寮で生活を行いました。私が研究活動を行ったSPCTS研究所は2010年の夏までリモージュ大学構内にあったのですが、2010年の秋にリモージュの郊外に移転してしまったので、毎朝30分程かけてバスでSPCTS研究所(写真3)まで通っていました。寮のすぐ隣に夜も営業している食堂があり、ほぼ毎晩そこで夕食をとっていました。

フランスの大学の朝は早く、八時から授業が始まります。私は授業をとっていませんでしたが、八時には多くの人が研究室に来ていたので、私も同じ様に八時から研究活動を始めました。朝早い分、多くの人が五時半に仕事を終えて帰り、家族と過ごす時間を大切にしていました。そのため日本と比べ、非常に効率よく研究に取り組み、成果を挙げている印象を受けました。P. Thomas先生は非常に忙しい方でしたので、主にJ.R. Duclere博士が私の研究活動をサポート



写真3. 新しいSPCTS研究所の廊下

してくれました。一日一回のJ.R. Duclere博士とのミーティング以外は基本的に私のペースで研究活動を行いました。また、日本の大学と異なっている点として、SPCTS研究所では実験機器一つ一つに技官の方がついており、測定も全てその技官の方が行う点が挙げられます。測定の予約だけでなく、測定の条件・目的等を英語で技官の方に伝えなければなりません。この技官の方とのやりとりが非常に大変でした。日本人程ではないですがフランス人も英語が得意でない方が多く(私がお世話になった技官の方もそうでした)、私の下手な英語など尚更通じませんでした。この様な時は、図や表を用いる事で自分の実験の意図を伝えるようにしました。研究において困った事はこの事ぐらいで、研究テーマも名工大で行っていたものに非常に近いものが与えられていたのでスムーズに研究を行う事ができました。それから、研究室には博士課程の学生や研究員の方が多く、修士課程の学生は私一人でした。この事もあり、多くの方が私の研究についてアドバイスを行ってくださり、非常に良い刺激を受けました。また、生活面で困ったことがないか等、研究面以外でも非常に気をかけてくれました。

普段の生活では、研究室の方々と一緒にレストランで食事をしたり、パブでスポーツを観戦したり、研究所以外でも楽しく過ごす事ができました。寮や食堂では、日本人が珍しいのか、多くの学生に話しかけられました。そこで多くの友人をつくる事ができました。寮の友人からは簡単なフランス語を教えてもらう事もできました。加えて、J.R. Duclere博士にボルドーやトゥールーズ等の都市を案内してもらい、リモージュ以外の都市についても知る事ができました。私は留学当初、フランス人に英語で話しかけるのは失礼だと勝手に思い込み、自分から英語でなかなか会話に参加する事ができませんでした。しかし、このままでは海外に来ている意味が無いと思い、積極的に英語で話しかけるようにしました。そうすると多くの方は大変親切で私の拙い英語をじっくり聞いてくれることがわかりました。そして時間が経つにつれ、「この国では遠慮など必要ないものかもしれない」と思うようになり、自分の意思を表に出せるようになりました。

おわりに

五ヶ月間の滞在を通して気付いた事は、日本人の特徴でもあり良い部分でもある「空気を読む」や「遠慮する」が海外ではプラスにならないという事です。そして、研究活動におけるメリハリやプライベートの時間を大切にする事を今後の私の人生に大いに活かしたいと思えます。

最後になりますが、この様なフランス・リモージュへの研究留学の機会を与えて下さり、また、

滞在期間中、様々なサポートをして頂いたことについて、関係する全ての皆様に深く感謝を申し上げます。

所属研究室ホームページ：

<http://nitzy.mse.nitech.ac.jp/~hayakawalab/index.html>

未来材料創成工学専攻エネルギー変換分野  
機能性ハイブリッド材料研究室  
指導教員 早川 知克 准教授

# 学内ニュース

## 若手研究者海外派遣プログラム成果報告会を実施

名古屋工業大学では、12月9日に「セラミックスを基軸とするものづくり研究拠点形成に向けた若手研究者育成プログラム（拡大ITP）」成果報告会を開催した。同プログラムは日本学術振興会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム—若手研究者大航海プログラム—」事業の支援を受け、若手研究者を対象に、海外の研究機関等において研究を行う機会を組織的に提供し、国際的視野な富む有能な研究者を養成することを目的としている。同大学では、主にセラミックス科学研究教育院及び情報系の研究者及び学生を組織的に学術協定校、並びにその他の大学・研究機関へ50名（内訳：助教・ポスドク等15名、学生（学部生を含む）35名）を派遣。派遣先は主に欧州・北米の8カ国、19の研究機関に及ぶ。今回実施した報告会では助教4名、博士後期課程学生1名、博士前期課程学生2名、学部学生1名の研究成果及び体験談を発表した。発表後には発表者と来場者との活発な意見交換が行われ実りある報告会となった。なお、同事業は平成25年まで継続予定である。（事務局）



写真2. 報告会の様子



写真1. 高橋学長あいさつの様子



写真3. 高橋学長、本事業関連教員及び発表者

# ごきそ ホットライン

名古屋工業会では、在学生の支援として○奨学金の給付  
○課外活動活性化支援金の授与○工大祭支援金の授与等  
を行っています。

## 平成23年度 名古屋工業会奨学金の授与

名古屋工業会から母校の在学生に対する奨学金の授与式が11月30日に行われ、日本人学生12名、留学生3名の計15名に篠田理事長から奨学金が授与された。

授与者を代表して未来材料創成工学専攻の山田朋生さんから謝辞が述べられた。

### 授与者

大学院（博士前期課程）

機能工学専攻2年 大北雄哉

武市康太

未来材料創成工学専攻2年 松井良樹

山田朋生

社会工学専攻1年 加藤慶太郎

第二部 物質工学科5年 小林琢児

電気情報工学科5年 小田龍平

第一部 生命・物質工学科4年 東 綾香

環境材料工学科4年 渡邊 桃子

WANG SHUANG

都市社会工学科4年 松村喜弘

機械工学科4年 BUI TRUNG DUNG

生命・物質工学科3年 喜多剛志

生命・物質工学科1年 神谷昌孝

電気電子工学科1年 NGUYEN MANH TIEN



篠田理事長から授与

奨学金を授与された皆さん（次ページ掲載分を除く）



大北 雄哉



山田 朋生



小林 琢児



小田 龍平



渡邊 桃子



WANG SHUANG



松村 喜弘



BUI TRUNG DUNG



喜多 剛志



神谷 昌孝



NGUYEN MANH TIEN

### 博士前期課程 機能工学専攻2年 武市 康太

このたびは名古屋工業会奨学金奨学生に選んでいただき、誠にありがとうございます。私は将来、世界最先端の技術力を身につけ、世界を変えられるような仕事をしたいという思いをもって、6年前に名古屋工業大学に入学しました。現在は大学院に進学し、流体力学の研究に日々注力しております。そして、学部時代から始めた研究も3年目を迎え、研究の総仕上げである修士論文作成にとりかかっています。学費および生活費は両親からの仕送りおよびアルバイトでまかなっていますが、3年間とりくんできた研究に今まで以上に時間を割きたいという思いや、24年間育ててくれた両親のためにも少しでも負担を減らしたいという思いから今回名古屋工業会奨学金に応募いたしました。残り少ない学生生活ですが、皆様方のご期待を裏切ることのないよう、私自身悔いのないよう研究に取り組みたいと考えております。また、大学卒業後も名古屋工業大学の卒業生として恥じない社会人になりたいと思っております。ありがとうございました。



### 博士前期課程 未来材料創成工学専攻2年 松井 良樹

この度は、名古屋工業会奨学生にご推薦いただきありがとうございます。私は研究室に配属されてから、研究に力を入れてきました。これまで、学会への参加や、学生講演を行い、知識の探求に努めてきました。実験を繰り返し、失敗を繰り返し、大きな成果を挙げたときの喜びは何事にも替え難いものでした。次第にこの喜びを味わえるような研究、開発の仕事がしたいと考えるようになりました。

また、大学院での生活を通して研究に対する考え方を身に付けることができました。これは、これからの仕事での研究開発の礎となると思います。

ここまで充実した学生生活を送れたのは、親や周りの方から支えて頂いたからです。今回頂いた奨学金で、少しでも親や周りの方の負担を減らすことが出来ると思います。残りの学生生活では、修士論文作成に全力を注ぎ、研究を大成させたいと考えています。ありがとうございました。



### 博士前期課程 社会工学専攻1年 加藤 慶太郎

この度は、名古屋工業会奨学生に採用して頂き誠にありがとうございました。私は、元々本学の2部生で、昼間アルバイトをして夜間に大学で勉強していました。その中で、より専門性を身に付けたいと思い、本学の大学院に進学しました。現在、私は土木系の鋼構造を専攻しています。今回の東日本大震災で被災された方に自分は今何ができるか考えると、正直、世間並みのことしかできていません。改めて、学生の中に自分の専門的知識や教養を学ぶことのありがたみを感じています。現在日本は、少子高齢化が進んでいますが、これからの日本の若者が国際社会を戦って行くには、やはり日本人としての勤勉さと感謝の気持ちを忘れないことだと思います。頂いた奨学金は、修学費等に充てようと思います。将来、名古屋工業大学で学んだことを社会に還元していきたいと考えています。残り僅かの学生生活ですが、悔いのないよう勉学及び人間的にも成長できるよう励みたいと思います。最後になりますが、これを感謝の意と代えさせていただきます。



### 第一部 生命・物質工学科4年 東 綾香

この度は奨学金をいただき、ありがとうございました。私の実家がある和歌山新宮市は先般の台風12号により多大なる被害に見舞われました。そのような状況にあって今回の奨学金は一層勉学に励むにあたって非常にありがたいものでした。

私は現在有機化学を専門とし、有機合成を行っている研究室で日夜学んでおり、将来は製薬会社などで研究職につき、仕事を通して何らかの社会貢献を行いたいと考えています。また、進路としては大学院進学が決定し、さらに高度な専門知識や技術を学ぼうと考えています。そういった日々の勉学の成果も徐々に表れ、最近ではフッ素化学討論会やCSJ化学フェスタなど様々な学会に参加し、発表する機会をいただいています。この度の奨学金はこのような学会の参加費用として活用させて頂く所存です。今後このご支援に報いるよう、さらに学業に邁進したいと思っております。



# 平成23年度 工大祭支援金の授与

第49回工大祭に対する名古屋工業会及び名古屋支部からの支援金授与式が、11月8日(火)に名古屋工業会館で行なわれ、篠田陽史理事長及び水谷尚美名古屋支部長から工大祭実行委員長の高橋洋行さんへ授与された。今年度の工大祭は「華楽結合」をテーマとして、大学構内及び鶴舞公園を会場に11月18～19日に開催された。  
(事務局)

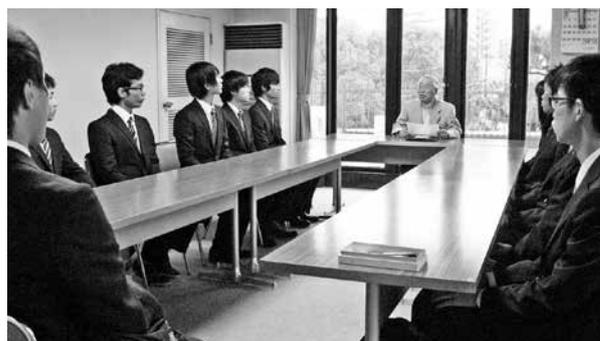


# 平成23年度 課外活動活性化経費授与式

社団法人名古屋工業会では、平成23年度課外活動活性化経費の授与式を2月14日に実施し、以下の10のクラブの代表者に篠田理事長から授与した。

授与クラブ及び企画内容は以下の通り。

課外活動団体名	企画名	支援金(円)
バスケット部	リーグ戦2部昇格のための練習道具(ボール)購入支援	25,000
弓道部	他大学との交流戦で優秀な成績を残すための支援	35,000
ボート部	新企画を行うことにより今後の課外活動の活性化への支援	45,000
ヨット部	新入部員の獲得、また技術の伝承と課外活動の活性化への支援	35,000
自動車部	鈴鹿市長杯全日本ジムカーナ選手権大会でよい成績を出す為に必要な資材の購入支援	35,000
ビリヤード部	大会に入賞することを目的に技術向上に必要な活動支援	25,000
写真研究部	作品の作成に必要な資材購入と、作品の発表会に必要な会場費用支援	25,000
S-EV(ソーラーカー部)	FIA ALTERNATIVE ENERGIES CUP ソーラーカーレース鈴鹿への上位入賞への支援	92,000
ロボコン工房	NHK大学ロボコンで好成績を出す為の機体作成に不可欠な資材の購入支援	91,000
吹奏楽団	工大祭、アンサンブルコンテスト出場、老人ホームでの演奏のための演奏技術向上への支援	92,000
合計		500,000



# 研究者紹介

## 知的障害者の建物清掃への 雇用の現況に関する調査研究

名古屋工業大学 大学院工学研究科  
産業戦略工学専攻 助教 須藤美音

建物清掃は単一の職種としては代表的な知的障害者の就労対象といえる。建築分野におけるノーマライゼーション推進の視座から、特別支援学校（知的障害）に勤務する教諭個人を対象にアンケート調査を行い、知的障害者の就労先としてのビル清掃業に関する意識調査を行った。この調査によって、知的障害者を企業に送る側の、ビル清掃の仕事や清掃を業とする企業についての印象、あるいは評価や価値観を明らかにする。

アンケート調査は、知的障害者教育を行う全国全ての特別支援学校596校を対象として行った。1192名にアンケートを依頼し、回答者数は672名であった。

アンケートの分析方法としては、回答者の属性と清掃業界に関するイメージの因果関係を明らかにするために非線形正準相関分析を行った。この結果、回答者の属性のうち「ビルメンテナンス会社を評価する情報入手状況」が清掃業の印象（清掃の仕事のイメージ、ビルメンテナンス会社のイメージ、労働条件や労働環境）に影響を与えていることが分かった。ビルメンテナンス会社を評価する情報を多く持つ回答者ほど、清掃という仕事の内容を比較的正しく理解し、さらに、ビルメンテナンス会社のイメージとして「現代的で、合理的な経営をする会社である」というような、会社を高く評価する回答が多い傾向がある。このことからビルメンテナンス業に関する知識や会社情報の提供が課題といえよう。

今回のアンケートの結果は、ビルメンテナンス会社側にフィードバックされることによっ

て、ビル清掃就労環境の改善に資するものと考えられる。また、ビルメンテナンス会社側からみれば、教諭側のビル清掃の仕事への理解不足により生じる誤解を解くべきポイントとなるだろう。本研究が知的障害者の就労支援の一助となることを期待する。



# 研究者紹介

## 名工大での10年

名古屋工業大学 つくり領域  
准教授（英語担当） 松浦千佳子

名工大に勤務して10年余り。名工大生の堅実に物事を極めていく態度は、どの文化にも通用する強い資質だと思う。こうした特性を発揮するためにも英語力が必要なのは言うまでもない。

現在英語を使う人間のうちネイティブは既に少数派。より明快で簡潔な英語表現が求められる。これを明らかにすることを最終目標に、英語プレゼンテーションを研究題材として、わかりやすい文章構成と効果的な声質の解析にあたっている。

名工大は単科大学だが、いろいろな先生方がいらっしゃるので、日頃から他分野のお話を伺い、また本学の公文書作成などに関わって情報収集するようにしている。英語表現を明快にしていくことは思考を明らかにすることなので、毎日発見の連続だ。

重要な会議で司会をしなければならない先生のお手伝いをしたことがある。理想は相応の英語表現を抽出した上での発話練習だが、生憎そんな時間的余裕は全くない。なので、できるだけシンプルに間やジェスチャーを取り入れ、最低限の英語表現でシナリオを作成した。

授業になるとどうしても理想形を描いてしまうが、こうした現実的な対応策を基礎に発展させる方法もあるのだろう。つまり、求められている役割、立場、他に利用可能なリソースをどのように活用していくか模索することから始めていくことだ。現実の母国語コミュニケーションでは無意識に行っていることの意識化だ。

この他、学生が現実に英語を使える環境構築のため、ESS部員と留学生による名工大案内パ



ンフレット・DVDの作成、マンチェスター大学での語学研修の実施を行った。本学には留学生も多くいるので海外に出かけなくても英語が使えるような仕組みがさらに構築できればよいと考える。



# 研究者紹介

## グリーンサプライチェーンの 実現に向けた研究

名古屋工業大学 大学院工学研究科  
社会工学専攻 助教 Sun Jing

### 1. はじめに

平成23年度、「グリーンサプライチェーンにおける自動車業界のリバース・ロジスティクスに関する研究」という研究課題に、名古屋工業会からの教官研究助成金「学長特別研究助成」をいただくことができました。誠にありがとうございます。研究活動に有効に活用させていただきたいと思います。

私は2000年10月に留学生研究生として、電気通信大学に入学し、修士と博士課程を経て、2007年3月に電気通信大学の博士（工学）を取得しました。その後、電気通信大学特別研究員と青山学院大学客員研究員を経て、2010年4月から名古屋工業大学都市社会工学科の助教に就任させていただきました。このたび、名古屋工業会会誌から「研究者紹介」の機会を賜りましたので、本稿では、現在自分が取り組んでいるグリーンサプライチェーンの実現に向けた研究について報告させていただきます。

### 2. グリーンサプライチェーンにおける自動車業界のリバース・ロジスティクスに関する研究

近年、大量生産・大量消費社会から循環型社会への転換が必要とされている。自動車製造業者を中心とした関係者に適切な役割分担を義務づけることにより、使用済自動車のリサイクル・適正処理を図るため、平成17年から自動車リサイクル法が完全施行されました。しかし、制定の意図でもある、自動車製造業者等における市場原理と適切な競争原理が働く仕組みの実現には、自動車製造業者を中心とした関係者の適切な役割分担問題、解体業者、部品リユース業者及び破碎業者を中心とする物流システムの最適構成問題が課題として取り上げられています。一方、経営の視点からのリバース・ロジスティクス問題に関わる研究では、統合サプライ



チェーンの物流シミュレーションモデルの構築（村山ら、2001）、クローズド・ループ・サプライ・チェーン内におけるベンダー在庫管理（VMI）問題の検討（佐藤と開沼、2009）、リバースサプライチェーンにおける戦略問題を定式化（Kishoreら、2007）等がなされています。しかしこれらの研究では、リユース業者間の取引を含む物流システムの最適な構成問題に関しては触れていません。このため、私達はリユース部品の利用率の向上を目指し、リユース業者間の取引を含むリバース・ロジスティクスモデルを提案し、実施可能な物流構造とその条件を検討しており（頼ハス、孫晶、越島、2010）、さらに、Win-Winの視点から、リユース部品業者全体の利益を最大にする物流構造の最適解空間を導くことにより、自動車業界のリバースチェーンにおける需要変動に対する最適物流構造の変更方策を考察しています（Sun, Koshijima, Hashimoto, Kato, 2011）。

### 3. サプライチェーンの循環率向上のためのサプライヤーマネジメントに関する研究

現在のグローバルアウトソーシングの活発

化、昨今の世界的な経済危機によるサプライヤーの廃業と業績不振に伴い、合理化されたサプライチェーンでは、物流の混乱、特にサプライヤーの納期遅延及び品質や安全性の不備といったトラブルが多発するため、新たに代替サプライヤーを適切に選び、その上でコストや品質を含む徹底的なサプライヤーマネジメントを実施し、さらに、サプライヤーの業務効率向上のための人材育成の実行がサプライチェーンの重要な課題になっています。この背景を受け、私は下記の3つのサプライヤーマネジメントの研究テーマに取り組んでいます。

(1) まずは、サプライヤーの戦略的選択問題において、サプライヤーの納期設定などのビジネス戦略の意思決定支援を行なうための管理図モデルを提案しています。そこで、管理図の管理幅、納期と総期待コストの関係を検討し、サプライチェーンビジネスの戦略決定に不可欠な、製品の品質、納期、コストのバランスのマネジメント規則を考究しています (Sun and Matsui, 2011)。最近、従来のSCMに求められたQCD (Quality, Cost, Delivery) に、ESつまり環境保全E (Environment) と安全S (Safety) の要素を加え、QCDESを評価軸としたサプライヤーの最適選択手法について検討を行っています。

(2) 次に、サプライヤーの生産工程の効率性向上のための多期間制約問題に関する研究においては、多期間制約サイクルモデル共通に存在する課題として、評価基準の効率的な導出手順、最適配置や最適切替問題に対する統一理論の構築及び統一的アプローチの考察を行っており、サプライヤーの生産効率の向上を目指し、多期間工程における加工効率の最適切替と作業員の最適配置の法則について検討しています (Sun, Yamamoto, Matsui, Man, 2011)。

(3) 最後に、サプライヤーの生産コンピテンシー向上のための人材育成プログラム開発に関する研究について紹介します。グローバル生産における情報可視化とスピード経営の実現に対して、激しい市場変動への迅速な対応を可能とする柔軟性・拡張性・豊富なモジュー

ルを持つERP (Enterprise Resource Planning) システムの導入が、企業の業務効率向上にはますます重要になっています。しかしながら、大学におけるERPの教育が遅れています。(Sun, Liang, Koshijima, Hashimoto, Ishii, Tamaki, 2011) では、より実践的なERP教材とカリキュラムを開発するため、定期的な研究会 (「事業創造戦略プロフェッショナル研究部会(TF21)」) での情報交換、および2007年度からの授業試行の結果に基づいて、ERP実践型人材のコンピテンシディクショナリを提案し、ERP実践コンピテンシー策定のための教育システムを開発しています。具体的には、まず、ERP実践型人材のコンピテンシー構築を提案し、さらに需給マネジメント、製番管理、MRP、在庫管理、マスタデータ管理およびスケジューリング技法などの実践的な生産管理の知識を身につけるための教材構成の仕組みを開発しています。そこで、実企業で実際に活用されている生産管理に特化したERPシステムを用いて実際に仮想企業の業務を行なうことで、実践的な生産管理の知識を身につける事を目的とした授業試行をし、さらに、課題とアンケートおよび専門家レビューによる評価を行い、提案した教材デザインの有効性を確認すると共に改良方策も検討しています。

#### 4. おわりに

昨年3・11の東日本大震災やタイの洪水などにより、サプライヤーの供給停止、廃業と業績不振を引き起こし、その結果、グローバルサプライチェーンにおける混乱とトラブルが多発してしまいました。そのため、サプライチェーンマネジメントにおいては、復興や新たな災害予防の視点からこれまでの経営マネジメント、情報システム、在庫マネジメント及び循環社会ためのリバース・ロジスティクスなど多くの課題に対して、見直さざるを得なくなっています。経営工学分野の研究者として、自分が今後とも、勉強しながら、学会や研究会を通じて、同分野の研究者達と一緒に議論し、考えていきたいと思っています。

## トピックス

## 翼会の歴史 座談会報告

平成23年11月22日(火)に名古屋工業大学2号館ラウンジにおいて、翼会（名古屋工業高等学校航空工学科同窓会）の座談会が行われ、航空工学科の卒業生9名及び大学から木下理事、北村、中村両副学長、名古屋工業会から水谷副理事長、加地事務長が出席し、翼会の歴史に関するエピソードや大学に対する質問、要望等について意見交換が行われた。

その後場所を校友会館へ移し、高橋学長、梅原、前田両理事が参加し卒業生懇談会を行い、昔話に花が咲き盛況のまま終了した。

## 翼会出席者

- 4期生 市村勝己  
 5期生 赤根好生 水野巖 三浦芳郎  
 6期生 渥美龍之 各務輝  
 7期生 小鹿良雄 犬飼次夫 蜂須賀英一



左から、市村氏、赤根氏、水野氏、三浦氏、渥美氏、各務氏、小鹿氏、犬飼氏、蜂須賀氏

## 【北村副学長挨拶】

私は、4月に設置した卒業生連携室の室長の北村でございます。今回この会を開催させていただきましたが、この会の開催に至る経緯について説明させていただきます。去る9月17日の工業会名古屋支部主催の支部総会・見学会に参加された三浦、小鹿、犬飼、服部様と本学の高橋学長、工業会の水谷副理事長（名古屋支部長）により「翼会のあり方」について第1回有志者会（仮称）で協議が行われました。その結果「翼



北村副学長

会のあり方についての意見」及び助言者の提言を参考に「翼会の今後の発展は望むべくもない現状を考えて、解消もやむなし」とする結論を得たことをご報告します。

そしてこの度、名古屋工業大学と名古屋工業会の共催により、『翼会の歴史座談会』及び『卒業生懇談会』を開催することとなりました。

## 【三浦様より挨拶】

本日は、大学と工業会の皆様にはこのような会を開催していただき、翼会会員一同は感謝しております。この会をもって我々も一つの区切りをつけることができました。



三浦芳郎氏

## 【会員の出席者の自己紹介】

## （市村勝己）

昭和17年4月に航空科に入学しました。35名の定員が70名に増えたので入学できたと思って

います。私は昭和19年6月に陸軍飛行学校に入学したため、9月の卒業式には参加していません。仙台飛行学校で3か月ほどたってから満州へ行き、そこにいました。仙台には山田科長先生が訪ねてこられ、学校では授業ができないと聞かされました。兵隊から帰ってきたら卒業証書が届いており、何も知らない状況でした。帰ってしばらくしてから航空科がなくなったと聞き、後輩が入ってこないのかどうなるのかと思っていました。今日初めて名工大の正門をくぐりました。感慨深いものがありますが、なんとなくよその学校へ来たような気がします。名工高の卒業生ですが、なんとなく遠い所へ行ってしまったような気がして残念です。

私は先ごろ名大の聴講生になり、今の大学でどういうことをやっているのかを見ましたが、ヘリコプターはやっているが飛行機のことにはやっていない。ロケットをやっているようでした。私とは縁の遠いところで親しみはありませんでした。私の希望は、名古屋には名だたる飛行機会社が集中しているので、もう一度名工大に航空科ができないものかということです。



市村勝己氏

#### (赤根好生)

私は昭和18年に入って20年に卒業しました。旧姓は野村です。入学して1年経ってから陸軍航空技術依託学生になり、2年生から陸軍の立川航空技術研究所の航空工廠で午前中は学科、午後は実習並びに軍事教練で終戦までいました。その当時卒業するためには教練に合格する必要があり、8月頃に学校へ呼ばれて教練の配属大佐近藤という人に軍事教練を教わって帰ってきているときに終戦になりました。終戦時に卒業証書をもらえると思っていましたが、軍隊に行っていて月謝が払っていないので今までの

分を全部払えということで、彼方此方から借りてやっと卒業しました。当時、航空科卒では紙飛行機さえ作れない状況でしたので、名古屋大学の応用化学へ入校し、卒業してその関係の仕事をしました。卒業以来初めてこの立派な校舎を見ました。非常に懐かしい思いがしました。また航空科ができてもいいのではという気がします。



赤根好生氏

#### (水野 巖)

私と同期の三浦さんは、学生当時副生長で秀才とっていました。赤根さんは旧制中学以来の友達で大秀才です。三浦さんは、学生時代から操縦の訓練を名古屋郊外の本地が原で終戦まで毎日やっていました。私は成績も中の下程度で平々凡々としていましたが、学徒動員に明け暮れて、20年8月に卒業と思ったら終戦になりました。そのとき学校に研究科の機械科コースができ、大半の卒業生はそこで半年間勉強をして修了証書もらい、それが就職のパスポートとなりました。私は鍋釜の会社に入って2~3か所転々とし、その会社がつぶれてしまったので、赤根さんと共に大学へ行こうと決めて、私は名古屋大学の法学部へ行きました。卒業して地元のテレビ局のアナウンサーになり、予想もなかった人生のスタートを切りました。そのため私の母校は2つあり、10~20代の青春真只中を過ごした名工専の2年半は、消すことのできない鮮やかな思い出として心に刻まれています。

当時、名工大工業化学科に吉田高年という方が見えて、旧制中学の先輩だったため何かと目をかけていただきました。昭和32年にアメリカの某大学に留学し、帰ってきた33年の秋に講堂の落成があり、記念講演会のスピーチをするこ

ととなり、会場の8割くらいの方が私の話を聞いてくれました。大学も変遷してきていますが、航空科の形を変えての新しい姿を見たい気持ちはありますが、学科を作るのが難しいなら宇宙航空工学の講座くらいはできないものかと心ひそかに期待しています。



水野 巖氏

### (三浦芳郎)

私は、名古屋高等工業学校の航空工学科に入ったのですが、次の年くらいに学校の名前が名古屋工業専門学校に、航空工学科が航空機科になったので何となくがっかりした思いがあります。実際に勉強したのは、最初の1年生のときにはすべての学科を履修したはずですが、2年生になったら7月に学徒勤労員で軍需工場へ動員させられ殆ど勉強していません。私は、その前に部活動の一つとしての操縦部があり、そこでは本物の飛行機を操縦するということが、費用は「只」とのことでしたので入らせていただきました。そこでは東海地区の色々な大学高専の学生が30～40人ほど集まって「赤とんぼ」(95式3型練習機)で訓練していました。土曜日にも訓練をやってくれるので、本地が原



三浦芳郎氏

での訓練に間に合うために3・4時間目の授業をさぼったりして参加していました。

勤労働員になってから配属将校近藤大佐に飛行機の訓練を続けさせてほしいとお願いに行き、了解を得てずっと訓練をしていました。当時の文部省通牒で決められた勤労働員でしたので、他の学校の学生はダメでした。

ですからほとんど操縦に明け暮れて、最後には2等操縦士の免許をもらいました。高等工業学校に入ったのに実際には操縦部に入ったようなものだったと思っています。

### (渥美龍之)

私の学生時代には、半分が戦争中、半分が戦後で、ものの考え方、国のあり方が変わり、戦争中は学徒動員で愛知航空機へ昭和20年1月から行きました。その前の年の12月7日に高橋先生の数学の授業があり、1時15分頃かなり大きな地震があって2階の教室がすごく揺れました。その地震で知多半島の中島航空機が倒れてしまい、2千機の飛行機が生産できなくなり、それも戦争に負けた原因と言われています。愛知航空で初めて特攻機を見ました。当時は「流星」という海軍の航空母艦に搭載する飛行機で、船が沈没したため生産停止になりました。その中である昼休みにメーターも何もついていない特攻機を見てショックを受けました。我々と同じ若者がこれに乗って特攻隊で行くのかと思います、戦争のみじめさを感じ非常に悲しく思いました。

色々断片的に思い出しますが、航空工学科の思い出はほとんどありません。就職難で先生になった人が多く、半数は先生、他大学へ行った人が1/3くらいで、私は電電公社に入り、専



渥美龍之氏

門学校を出ているということで特別扱いを受けた覚えがあります。

#### (各務 輝)

私は昭和19年4月に航空工学科の第6期生として入学しましたが、同時に校名が名古屋工業専門学校、科名が航空機科に改称されました。この年から中学4年修了でも理工系高校が受験できるようになり、入学者の中に4修、5卒、1浪、2浪がいました。また徴兵逃れのため文科系希望者もかなりいました。上級生はすでに動員されており、5・6月頃1～2度来校されたほかほとんど接触はありませんでした。

風洞実験室は三菱重工に徴用されていたため入室はできませんでした。この年より徴兵検査適齢期が満18歳になり受検した者もいましたが、皆第二国民兵となり1日入営で済まされました。学習は1日8時間で航空工学科らしい授業を受けていましたが、秋には動員されました。動員先は愛知航空機（現在の愛知時計）名古屋船方工場と中島航空機半田工場に二分し出向しました。船方では海軍海上攻撃機「流星」の組立工程へ、半田では同じく「天山」に携わっていました。愛知航空組は警戒警報が発令されると市内各所の消防署へ行きました。昭和19年12月7日に東海地震があり、半田では工場の床面が波打っていましたが、船方はさほどの被害はありませんでした。

昭和20年1月には三河地震があり、半田ではかなりの被害がありました。学校の航空科校舎脇の貯水池からは水がかなりあふれていました。また大規模な空襲があり、市内各所で焼夷弾攻撃を受け、消防ポンプ車で出動し消火にあたった者もいました。3月の空襲により航空科の格納庫以外のほとんどの校舎は消失しましたが、鉄筋コンクリートの電気工学科は躯体を残していました。また機械工学科の赤レンガ工場は、ほとんどの機械類が損傷していました。4月に動員先船方工場の監督官（海軍中尉）との間でトラブルがあり、工場を追い出されましたが、山田教授のお骨折りで川崎航空機一宮工場へ移りました。そこでは陸軍戦闘機「飛燕」の翼の組立治具を製作していました。6月に船方工場が爆弾攻撃を受け、動員学生、女学生、監督官を含む2千人以上が死亡したと聞いて、一

宮組の我々は複雑な思いでした。終戦は工場で聞き、焼け残った91機の発動機解体作業を前田教授が立会い6期生数名で行いました。10月に躯体のみとなった電気工学科内で床にむしろを引き、腰掛け、長椅子を机として授業が始まり、上級生の卒業式もここで行われました。12月に航空機科は第2類機械科となり、校舎も変わり6期生の校舎は第2校舎で卒業までは使われていました。

昭和21年の講義は機械工学科並みであったようで、山田教授の米国留学時の経験で、熱力学は毎週テストがありました。昭和22年3月の卒業設計は渦巻ポンプでした。新教育制度が始まり、卒業後中学校教師が多数出ました。



各務 輝氏

#### (小鹿良雄)

昭和20年に航空機科に入りましたが、中学校の頃は勉強もしなくて4年生で受験したら合格してしまいました。山田先生の口頭試問を覚えています。あなたは教科書以外に何か読んでいますかと聞かれ、蛍雪時代を読んでいると答えたら、戦争中に進学に関係するようなものを読んでいるのかと言われ、受験のために読んでいるのではなく学生としての見識を高めるためであると答えたらニコッとされました。口頭試問の回答が気に入っていただけたのかなと思っています。入学試験もまともなものではなく、ミツバチと花があって、ミツバチの飛ぶ状況について設問に答えなさいというもので、私は花の状態ではなく何月何日には天気等で飛ぶ状態が良いと回答した記憶があります。空襲で校舎がほとんど全焼したため入試の結果が門の柱に貼り出されていたことを覚えています。私も中島航空機の工場へ行って15日くらい作業

をしたのですが、飛行機の部品が全く分からなくて作業ができず、私も駄目だなと感じました。また卒業式の記憶がなくて、証書もらった記憶もなく、会社の就職試験に行くときに学校で卒業証明書をいただき、卒業した実感を得ました。



小鹿良雄氏

#### (犬飼次夫)

昭和20年に入学しましたが、合格発表も用事があり見に行きませんでした。友達から合格していると教えてもらって半信半疑でしたら学校から合格通知が来ました。昔の講堂で身体検査をやったことは覚えています。合格してから、半田の農業学校へ集合ということで、行ったら前田先生がお見えになり、中島航空機製作所へ行きました。鴨池寮へ入れられてそこから工場へ行って仕事をしました。そこは防空壕もなく警戒警報が出ると仕事をほうって逃げるのですが、上から艦載機が来て、橋の下などに必死で逃げて非常に怖い思いをしました。卒業して会社に入って設計を20年ほどやって定年までいました。いろいろな病気はりましたが、今回誘われてきました。



犬飼次夫氏

#### (蜂須賀英一)

私も口頭試問で山田先生から何を讀んでいるかと聞かれて、当時カメラに凝っていたので朝日カメラを讀んでいると答えたら、先生もカメラが好きそうで話が合ってそれで合格したのではと思っています。入ってすぐに半田の中島航空機へ動員され、海軍の艦上偵察機「彩雲」の油圧関係の配管をやりました。鴨池寮から毎日通っていましたが、終戦の1月前に爆弾が寮に落ちて寮が吹っ飛びました。そのため名古屋から国鉄で通い、終戦になって復学しました。

校舎が燃えて、行くところがなく軍隊の馬小屋のような兵舎が残っていたのでそこで授業をしました。3階建の本館で中は燃えてがらんどうでしたが、そこに簡単な机を並べて授業を受けました。実験等はなく机上の勉強だけでした。卒業して通信省に入りましたが、父がラジエター関係の仕事をやっていたのでその仕事を継ぎました。今は自適の生活を送っています。



蜂須賀英一氏

#### 【質問等】

Q: 当時の学生の出身地はどんなようでしたか。

A: ・5期生はほとんど近郊の人が多く、半分くらいは西日本(広島・京都、富山)・中部・関西で、東の方からはあまりなかった。静岡あたりの生徒はほとんどが東へ行きました。

・北は札幌1中から南は鹿児島1中まで万遍なく来ていました。ドイツ語の寺沢先生の口癖が「航空科ともあろうものが」で、当時の入試では機械科が一番難しいが、入試をやってみたら航空科と甲乙つけがたいほど並んでいたらしいということを披露され、発破をかけられました。卒業後の戦後に産業が壊滅した中で、生活のため就職する人や無理やりに大学へ行く人もいました。東大、京大、

名大、医大などへ入った頭の良い人が多かった。

Q：今の学生は偏差値で大学に入学するが、先輩方は飛行機に乗りたい又は作りたいというものがあって航空科を受験されたのでしょうか。

A：・当時も今に近いところがあったのではないかと、私は航空がやりたかったわけではなく、商船学校へ行きたかったが、父の転勤の関係で名古屋の理系の学校ということで受験しました。中学の担任からは「航空科は難しいから八高にしたらどうか」と言われましたが何とか入れてもらいました。

・ある程度の会社は学歴が必要だったので入ったが、当時は戦争中であり勉強をしていなかったが高等工業出は即戦力になる。学校ではいろいろ教えるが、我々は答えがあればよく、それがあれば設計はできる。しかし出世はできない、法学部を出てマネジメントができる者が出世すると感じました。

Q：航空科がなくなって第2類機械科になったと思いますが、皆様はそこを卒業されていますか。

A：第5期生は昭和20年9月20日付の第1部航空機科課程を修了したことを証する卒業証書と、一部の者は昭和21年3月25日付の結城校長名で「研究科所定の機械課程を修了」と書かれていた修了証書を持っています。

第2類機械科となったのは昭和20年12月からだったと思いますので、第6、7期生は第2類機械科卒業になったと思います。

### (大学への要望)

名工大の将来像について、私の夢は、名大医学部、東工大、大阪大学工学部は設立当時から何度も変遷を経て現在に至っているが、名工大は名高工からの伝統に胡坐をかいて自己満足せず、MITをモデルに底辺を広げて理科系の世界的な大学を目指してほしい。

A：法人化後広報に力を入れており、名工大に関する新聞記事が6年前の3倍になっている。今年に入って中日新聞の1面記事だけでも4件紹介されていて、名工大の中身が皆様に理解されてきている。今後も名工大について皆様にわかりやすく伝えていきたいと思ってい

ます。また実学の分野に関しては、マネジメントに関する新専攻ができ、技術のみではなくマネジメント分野もハンドリングできるような優秀な学生を育てようとしています。学科レベルではないが、異分野の先生が融合して新しい工学の分野を作っていこうとしています。例えば材料の分野ではセラミックとポリマーが融合して非常に機能性の高いフィルムが開発され、新聞の1面トップで紹介されました。また昨年から人文系と工学系の文理融合型の研究会ができ「エイジレスコミュニティ教育研究センター」で高齢社会を工学の立場でどのように支援していくのかについて年代を超えてその方法を探る分野が立ち上がっています。JAXAと名工大で極限状態で生きる技術を研究するなど、工科系の総合工学の分野まで底辺を広げる努力をしています。

A：本学の広報の3本柱として1.歴史がある。2.良い場所にある。3.就職率が良い。をもって入学する学生のレベルが名大工学部に追いつくよう努力をしていますので、今後ともよろしく願います。

【この後、水谷工業会副理事長の挨拶により閉会とし、学長等が出席して懇談会を行った。】



懇談会で挨拶する高橋学長



懇談会出席者